

事業の基礎情報

事業実施地域	福井県全域
人材育成の対象	地域のまちづくり人材、交通事業者の社員
人材育成の手法	講座、ワークショップ、伴走支援(様々な専門家が実施)
人材育成の内容	企画構築ノウハウを習得させ、在来線活用促進に繋がる企画を生み出す人材の育成
想定育成人数	60名以上 (講座20名以上、伴走支援30名以上、実証事業10名以上)

取組の概要

(現状の地域課題と事業目的)

北陸新幹線開業に伴い、令和6年3月より在来線が民営化され「株式会社ハピラインふくい」が始動。JR在来線の民営化により運営赤字が見込まれるが、赤字だからと事業縮小を行うと地域交通が疲弊し雇用、教育、消費などに悪影響を及ぼす。俯瞰して考えると運営赤字以上のマイナスが生じる為、赤字でも地域交通の活性化は必要である。在来線活用に繋がる人材がない事と交通事業者社員の地域コーディネートするノウハウが不足している事が課題。

当事業は、地域人材と交通事業者社員の人材育成を行い在来線利用率向上を目的に実施。

(事業の概要)

- ①地域でまちづくりを行う地域人材と交通事業者社員を対象に人材育成を実施。
- ②講座、伴走支援、実証事業を実施。
- ③講座：企画構築、DX化、SNS活用などを実施。

伴走支援：在来線利用向上に繋がる企画構築・実施や地域人材のコーディネートに関するノウハウ提供、支援を実施。

実証事業：実証からフィードバックを行いブラッシュアップするという過程を学んでいただく。 ※一部の事業で実証を実施。

- ④企画構築・実施、地域コーディネートに関するノウハウの習得を目指す。

取組の詳細

(事業により見込まれる効果)

- ・在来線利用率向上に関する企画を10件以上実施。 ※内、継続事業8割を目指す。
- ・駅を活用した企画が増える事で、機運醸成となり駅を活用する人材が増え更に企画が増える。
- ・運営側、県民が駅活用の新たな可能性を発見でき、在来線活用の幅が広がり利用率向上。
- ・在来線の利用率向上 昨対比110%以上を目指す。
- ・地域に企画が増える事で、生活満足度向上に繋がる。
- ・ハピラインふくいでは、ファンクラブ制度があり、企画との連携を行う事でファンクラブ会員増に繋がる。
- ・ふくいMaaSと連携し事業とふくいMaaSの利用向上。

(事業実施手順・スケジュール)

7月～8月

①事業案構築

実施事業者
・地域改革
・ハピラインふくい
・福井県

実施内容

・企画案の構築
・講座案の構築
・連携先模索
・業務担当決め

8月～11月

②講座

実施事業者
・地域改革

実施内容

・講座の実施
・外部講師派遣
・アンケート調査

8月～1月

③伴走支援

実施事業者
・地域改革
・坂井市まちづくりセンター

実施内容

・ハピラインふくい社員、地域人材への伴走支援
・アンケート調査

8月～2月

④実証事業

実施事業者
・地域改革
・ハピラインふくい
・坂井市まちづくりセンター

実施内容

・企画案の実施
・事業の検証
・アンケート調査

(補助事業実施後の予定)

令和7年度以降毎年

- ・実施した事業をブラッシュアップして継続して実施。
- ・地域人材の伴走により、新規事業の構築を行い企画数を増やす。
- ・ハピラインふくいは、協賛金、事業収入、既存予算などで企画を実施。
- ・地域人材は、自走できる支援を行う為、資金補助をせず企画を実施。
- ・駅を活用した広告事業の実施。